

6 奄美大島を AI 移動体開発のテストコース化

今日の自動車は近未来には AI 移動体となると予想されている。各社は熾烈な開発競争を展開している。また、大学や研究機関が基礎研究や実用化実験を重ねている。ハイブリッド、電気、水素、燃料電池などいろいろな動力源があるが操作するのは電気・電子である。そのテスト地域として手を挙げて、物流も一体化した移動体とそれを動かすシステム開発のテストコースとするのはどうだろうか。

I. 奄美大島をテスト・ゾーンとする利点は、

- 1) 人口規模と人口構成、複雑な地形でありながら適度な広さ、保護指定地の存在などが実験地として適切と思われる。
- 2) 山がちの島に約 165 の町と村があり、住宅、集合住宅、商店、大型店舗、また港湾、工場、官公庁、商業・医療施設、観光の各施設などが点在している。従来の公共交通機関では需要に十分に答えきれていない。
- 3) 台風、冬の暴風雨、日照り、高潮、長雨、などの気象条件下、災害対策へのデータの集積が可能である。
- 4) 新システムの導入に伴う住民の生活態度の変化、生活水準の変化をデータ化することで需要予測が可能となる。
- 5) 高齢者、1人親家庭が多く、これへの適切な対処を官民でデータ収集し、他地域への展開に生かすことができる。

II. 本企画の前提として以下の諸事業が国、県によって予算化され、支援されるものとする。

- a) 実験地域として全島をフリーWiFi化する。これは観光客誘致にも機能する。
- b) 新しいエネルギー源(垂直回転軸型風力発電装置、潮流発電など)を検証し、導入を進める。
- c) 各集落、町内にデータ通信拠点、風力発電また太陽光発電の基盤施設を設置することへの住民承諾と必要な土地を確保する。
- d) 通信、エネルギー、バイオ、高齢者医療、廃棄物処理、など研究機関を域内へ招致する環境を整える。
- e) 乗り物の環境変化に伴い、住民の新エネルギー車への乗り換えを促進する政策を導入する(軽トラックの需要が高い)。
- f) 過疎化により人知れず埋もれている歴史遺産や文化遺産が多く、博物館、図書館、資料館と協力してこれらを観光資源として生かすべく調査する。

III. 地域、および地元住民にとって期待される利点

- イ) 現在、路線バスの減便、廃止により、市街地以外の住人が通勤・通学、買い物、通院、など必須の移動手段が大きく制約を受けている。本事業が実現すれば、安全で便益性の高い移動手段が提供され住民生活は大きく改善される。
 - ロ) 島内どこでもインターネット接続が可能で、行政窓口・医療機関の便益性の向上、健康管理への活用、観光客の満足度向上、宅配便の位置把握等により、便益性が向上する。並行して、教育水準の向上が期待される。
 - ハ) 島内での移入物資の高価格が問題であるが、食品、日用品、生活雑貨、すべての船舶から荷下ろしされてからの流通を短縮・効率化、在庫の圧縮、廃棄される生鮮食品の減少が期待される。
- ニ) 目的別の研究機関が複数設置されることにより、島内にて高等教育の場が提供され、進学による若者の島離れがある程度回避できる。
- ホ) 行政、企業、研究機関からの視察が来島し、ビジネス客の増加が期待できる。

IV. 参画する民間事業社・出資者にとっての利点

- ・島嶼という限定された地域でノイズを除去し、純度の高い基礎データの集積ができる。
- ・地域全体が AI 作動の移動体へと移行する状況を自社の公報活動に活用することができる。
- ・利用者負担は低く抑えることで AI 移動体の普及を促進し、全国導入時のシュミレーションを行うことができる。
- ・AI 移動体導入の初期に参画することで、以後の商品開発・販売計画に優位的立場を保持することができる。

(恵原義之)